EVENT VIEWER »01

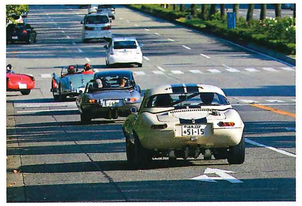
NAGOYA CLASSIC TOUR Season.3

■第3回 名古屋クラシックツアー

text:Kenji NAKAMOTO(中本健二)
photo:Kazuhisa SAWADA(澤田和久)

集合場所となった名古屋市内の名城公園二の丸駐車場へ続々と集う参加車両たち。エントリー可能車両は、2000年までに生産されたスポーツカーとなっている。

ドライバーズミーティングの後、ゼッケンを貼り出走前点検を済ませた参加車は、7:45になると隊列を組みながらスタート会場となる長者町繊維街へ移動を開始する。



70台以上の車両がエントリーした今回のイベントで、最多を集めたジャガー。EタイプやXK120、140、150などのクーペだけでなく、Mk-1、Mk-2といったサルーンも見られた。

濃密なワンデイラリー

1デイ・イベントの『名古屋クラシックツアー』は、年に2回開催されている2デイの『ヒストリックカーミーティング』の姉妹イベントとして、気軽に参加できるヒストリックカーラリーとして用意されている。エントリー可能車種は2000年までに生産された車両と幅広いことも特徴だ。

"HOME NAGOYA"をテーマに掲げ、名古屋でしか体感できないプログラムや走行ルートが盛り込まれている。出発は長者町繊維街に設定されており、カーフェリーを使って三河湾を渡り、渥美半島や知多半島をぐるりと駆け抜ける。走行距離は約230kmで、ゴールは三重県湯の山複合温泉リゾート『アクアイグニス』だ。1デイとは思えない程コンテンツを詰め込んだラリーイベントとなっている。

『フラワーライン』の航路廃止により、恒例となりつつあったカーフェリー貸切運航は最後となってしまったが、次回はより魅力的なコンテンツが加わることは間違いない。12月にはヒストリックカーミーティングが開催されるため、今回のイベントを楽しんだ初参加者は、ステップアップとして次回へエントリーしてはいかがだろうか。

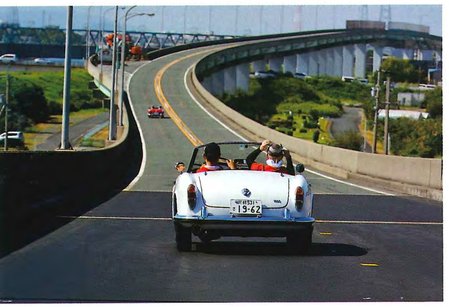
EVENT DATA

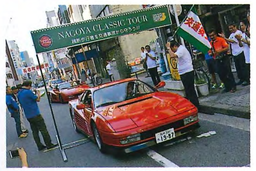
ジャンル:公道ラリー
エントリー車両:2000年までに生産されたスポーツカー
開催日:2014年9月28日
開催地:名古屋-三河湾周辺
■問い合わせ:ヒストリックカーミーティング実行委員会
URL:http://historiccarmeeting.com/

Report Memo

名古屋クラシックツアーは、初心者でも気軽にヒストリックカーの公道ラリーを体験できるイベントを目指している。コマ図はシンプルで、競技性とあわせて話題の観光スポットが多くルートに組み込まれている。今回が最後となったが、フェリーを使ったユニークなプログラムも特徴だ。

終日快晴に見舞われ、オープンカーで走るには最高のコンディション。名古屋市内を抜けて、小坂井バイパスを快走するアルファロメオ・ジュリアスパイダー。





■11:00—スタンプポイント

スタートから約120kmを走り、第1スタンプポイントに設定されたニュー渥美観光。ここでしばし休憩をとり、次のポイントを目指す。走行を重ねた参加者のノドを潤すのは、半分にカットされた大振りのメロンだ。地元の食材を堪能できる点はこのイベントの特徴といえる。

オリジナルコンディションを保つジャガーMk1と、各部にモディファイが加えられたMk2。2台を同時に見ることの出来るイベントはそうそうない。ニュー渥美観光ではメロンの直売が行われており、お土産用に購入する参加者も多かった。スタンプポイントでは、船、港、海の女王がエントラントを出迎える。

■12:30—カーフェリー乗船

師崎港と伊良湖港を繋ぐカーフェリー「フラワーライン」での移動を終えた参加車両。フェリーのキャパシティー一杯に積まれたヒストリックカーが、次々と降りてくる光景は圧巻だ。残念ながら9月末で運行は終了したが、良い思い出となったことだろう。

乗船までの時間は、地元の和太鼓演奏や子供たちと触れ合いながら楽しむ。ステアリングやシフトノブを握り、ドライバー気分を体験する子供たち。フェリー乗船中には、これまでのイベントへの協力を感謝して、今村船長に花束が手渡されるなどのセレモニーも行われた。

フェリーに参加車両70台以上を一度に積み込むことはできないため、A、Bふたつのグループが用意されており、入れ替わりでクルーズを楽しむ。この時間を利用してジェムカワグチ特製クルージングランチを味わい、午後の走行へと向かう。

三河湾を左手に眺めながらシーサイドランを楽しむフィアット500。水平対向2気筒のエンジンリズムは、心なしか軽やかに感じられた。続いて、ロータス・スーパーセブン、ポルシェ904GTSが勇ましいエグゾーストノートを響かせる。

■13:45—1st PC競技

アルファロメオ・コンレロを先頭に、豊浜漁港に設定された特設PC会場に到着した参加車たち。ここでは、50m9秒、60m11秒、30m7秒の3連続PCが行われた。

ラリーコンピューターを使い、100分の1秒まで正確にターゲットタイムを目指すベテランから、キッチンタイマーやストップウォッチを組み合わせたお手製のラリーコンピューターであわよくば……を目指す初心者まで、同様にPC競技を楽しむ。

■15:00—2nd PC競技

2回目、最後のPC競技は、知多市研修センターに作られた特設コースだ。160m29秒、40m8秒、30m6秒、30m7秒の4連続PCとなっている。

第1PC区間には鋭く回り込むヘアピンが設定されていて、ここでつまずくと最後までその影響をリカバリーできずに、ポイントを延ばすことの出来ない参加者が多かった。そのほか、タイム計測に失敗し、カンを頼りに走り切った参加者もいたようだ。参加者は悲喜こもごものPC会場だが、見学者にとっては、ヒストリックカーが次々と走行シーンを披露する絶好のポイントとなる。

■16:30—ゴール

最後のPC競技を終えた参加者は、伊勢湾岸道を西へ走り、約50km先の三重県湯の山の複合温泉リゾート「アクアイグニス」を目指す。ゴールでは走行を終えた参加者、そしてイメージキャラクターの仲西悠綺さんがお出迎え。

■17:30—パーティ&表彰式

表彰式が行われたアクアイグニスの芝生スペースには、モーガン3ホイラーやBSAアリエル3、マツダT2000などバラエティに富んだ3輪が特別展示されていた。

Rs(アース)の歌と、キッズダンスボックスのパフォーマンスでパーティを盛り上げる。競技を終えた後のプログラムも満載で、最後まで参加者を飽きさせない。

ゼッケンNo.のラベルが貼られた白ワインは、全てのプログラムが終了して、帰り際に手渡されたお土産。帰宅後は、イベントを振り返りながらワインを楽しむ。

3輪だけでなく、最新のアストンマーティンやジャガーEタイプなども展示された。一般来場者にもクルマの持つ魅力や、クラシックカーの楽しみ方を提案する絶好の機会となっていた。

12月には姉妹イベントといえる、2デイ公道ラリー『ヒストリックカーミーティング』が開催される。記念すべき10回目とあって、例年以上に盛大で濃密な内容となるはずだ。

RESULT

1位

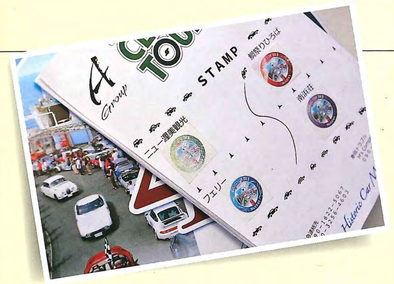
優勝は1936年式のMG TDでエントリーした安藤武彦さん、佳代さん組。合計ポイントでは2位以下を大きく引き離す好成績を収めた。

2位

数年かけてフルレストアし、細部までこだわって仕上げたという1969年式ロータス・スーパーセブンSr.3で参加の田嶋久美さん、真由美さんペアが2位を獲得。

3位

ビギナークラスながら、高タイムを連発した長谷川睦さん、知子さんペアがクラス優勝。総合でも3位に食い込んだ。愛車は1969年式シボレー・コルベット。



EDITOR'S MEMO

取材協力:日産自動車(phone:0120-315-232)

日産GT-Rニスモで味わう名古屋クラシックツアー

今回、名古屋クラシックツアーを取材するにあたり使用した日産GT-Rニスモは、GT-Rの性能と存在感をより高めたモデルだ。前後フェンダーや、シートバックなどに使用されたカーボンパーツなど目に見える部分以外にも、リアサスの取り付け部分の結合剛性も高められている。一部を改良して性能を高めただけでなく、トータルでマシーン性能を上げている。ワークスが手がけるとはこういうことだと言う見本の様な仕上がりだ。レース専用のGT3仕様と同じ大容量の専用タービンを装着し、最高出力600psと途方もないパワーを持ちながら、ピーキーなところがなく一般道をゆっくり流す際には2000r.p.m.以下が常で低回転でも扱いやすい。

GT-Rニスモは、遠くからでも目を引く存在感と巨大なリアスポイラーが相まって、イベント中はどこへ行っても注目の的だった。特に子供たちに人気で、クルマと並んで記念撮影されることが多く、将来クルマ好きになるきっかけになればこれほど嬉しいことはない。いつでもスーパーカーは人気の的だ。

日本有数の繊維街として栄華を極めた長者橋繊維街では、河村名古屋市長に見送られてスタート。多くの来場者にカメラを向けられ人気者気分を味わう。

フェリー移動も体験。GT-Rの存在感をより高めたGT-Rニスモは、どこへ行っても注目の的。旧車乗りも興味があるようで、声をかけられることが多かった。

フェリー乗り場に駆け付けた、貝づくし温美事業委員会所属の「かいくん」。2014年ゆるキャラグランプリにエントリー中だ。その両サイドをかためるのは第35代船の女王、港の女王、海の女王。

新次郎太鼓保存会の皆さんによる勇壮な演奏で気分が盛り上がる。体を震わせるほどの圧倒的な音量が心地良かった。地元に根付いた文化に触れることの出来るプログラムまで用意されているイベントはなかなかない。

今年で設立30周年を迎えるニスモが、日産ワークスとしてレースフィールドで培った技術を惜しみなく投入したニッサンGT-Rニスモ。カーボンパーツなど目に見える部分以外にも、リアサスの取り付け部分の結合剛性やボディ剛性を高めるなど、あらゆるところに手が加えられたレーシングカー直系の1台。最高出力はなんと600psを発揮する。

胃袋で心を鷲掴み!

主催者がルート設定と同様、いやそれ以上に頭を悩ませているのが食べ物や立ち寄るポイント。話題のスポットをいち早く取り入れることで、参加の決定権を握るパートナーの心を捉えている。

これでひとり分!

スタンプポイントで味わうことができた、半分に切ったメロン!瑞々しいメロンでノドを潤す、なんとも贅沢な休憩時間だ。果肉を食べた後は、ストローを使い果汁を味わう。

海を見ながらランチ

フェリーに揺られ三河湾を眺めつつ、ジャムカワグチ特製ランチを堪能する。スタッフが試食を重ねてメニューを決めたとあって味、ボリューム共に満足。しかもデザート付き。

ツアーのお友は地の物を

スタンプポイントその2は、えびせんべい鯛祭り広場。その名の通り、えびせんべいがオススメだ。ツアーのお友として小腹がすいたときに、パリパリ食べるのにちょうど良い。

シメにスイーツ

ゴールのアクアイグニスには、パティシエ辻口博啓シェフが手がける人気店「コンフィチュールアッシュ」があり店内のカフェコーナーでスイーツ三昧。お土産はコンフィチュール!